



学校だより

横浜市立末吉小学校

令和2年度

7月号

学びのチャンスはいつでも

副校長 菅野 範子

紫陽花の青や紫がよく映える梅雨時です。先日は正門近くの道路で小さなカタツムリに出会い、そっと青葉の上に戻してあげました。

今年度より末吉小学校に着任いたしました、副校長の菅野 範子（かんの のりこ）と申します。4月7日のテレビ放送での着任式で、画面越しにあいさつをして以来、臨時休業明けの6月からようやく末吉小の子どもたちに出会うことができ、嬉しく思っています。

長い臨時休業の後、子どもたちが戻ってきた学校は本来の活気を取り戻し、元気な明るい声と笑顔であふれています。健康観察、手洗いうがい、マスク着用、密を避ける等の感染防止対策を行いながらの学校生活は不便に感じるかもしれませんが、それでも友達と一緒に過ごす楽しさや、授業を通して学ぶ楽しさを感じている様子が伝わってきます。今までにない困難な状況の中にあっても、いきいきと学校生活を楽しむ子どもたちの姿に、大変励まされる思いがします。感染防止対策の取組はしばらく継続いたしますが、安心して学校生活を送ることができるよう、ご家庭におかれましても健康観察や持ち物の用意等、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、私と同じく4月から末吉小の仲間入りをした1年生とのふれあいのエピソードを紹介します。中休みに密を避ける遊びを工夫し、「かげふみ遊び」をしていました。

「かげができるのはね、たいようのぼしよがこっちにあるから、そのはんたいがわだよ…。」ある子が影のでき方について教えてくれました。それを周りで聞いていた他の子が、「そうなの！じゃあ、ここにたつと、かげがほかのかげのなかにはいつてつかまらないね。」と教えてくれました。

「よく知っているね！ふたりともすごいなあ～。」

と声をかけると、二人とも誇らしげな表情を見せ、再び遊びの輪に入っていました。

影のでき方やしくみについては3年生の理科の学習内容ですが、1年生でも既に知識をもっていることに大変感心しました。また、友達のつぶやきが別の友達の新たな気づきへとつながり、学びが連鎖していく瞬間に立ち会えたのも喜ばしかったです。

このように、遊びや日常でのあらゆる出来事、周りの人とのかかわり等、子どもたちはいつでも、どこにいても多くの学びのチャンスに囲まれています。そしてその体験から見つけたこと、気付いたこと、感じたこと、思ったことが全てその子にとっての学びとなり、力となっていきます。臨時休業期間のご家庭での生活の中でも、そのような学びの機会があったかもしれません。その時ならではの体験や思いがその子のこれからの成長に大いに活かされていくことでしょう。

そして、学校が再開した今、授業では子どもたちが「分かる喜び」を実感できるよう、学習活動の工夫に努めてまいります。また、各学級での生活や友達とのかかわり等を通して、さらに多くのことを学び、心も体も大きく豊かに育つよう、教職員一同で指導と支援に励んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。